

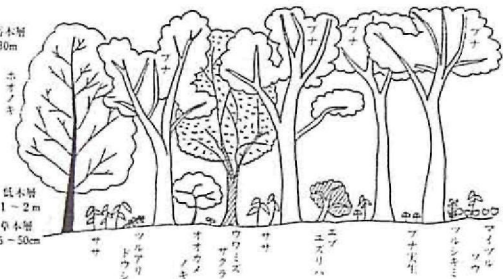


ブナ林をみる大事なポイント

一九八五、八六年六月の全国一斉ブナの森自然観察会の記録から (植生編)

新緑が美しい季節—中でも格別なのがブナ林ですね。美しいブナ林も、見方を変えればと興味深く見えてきます。その観察ポイントをと三つ。お出掛けの前に一読ください。

渡辺 隆一



富山県・立山(標高一、一六〇m)におけるブナの断面図
富山県ナチュラリストの会
富山県自然保護協会 報告書より

ブナ林は日本を代表する美しい森林です。それが急速に失われようとしています。またブナ林の研究もまだ不十分で、わからないことがたくさんあります。記録もされないままに伐り尽されたブナ林も数多くあります。一九八五年、八六年の六月に全国一斉ブナの森観察会でおこなわれた調査は、こうした面でも貴重な資料となつていよう。各地のブナ林の報告からどんなことが読みとれるか整理してみました。このことよって今後、各地のブナ林のほかの地域とのちがいを調べるうえでどんな点に目をむければよいのかもわかるでしょう。

見たことのない森について、またいろいろな人たちの異なる視点での記録を理解するのはなかなか大変です。まず全体を一覧表にしてみよう。項目はブナ林をみるときに重要と思われる、一、自然度、二、ブナ林の構造、三、ブナ大木の大きさ、の三点としました。以下にその結果を報告しましょう。

調査地は全部で三八カ所、本州の北から、四国、九州までほぼ全国をおおっています。これら全部のブナ林をまわって見るだけでも大変なことでしょう。各地に出かけるときのよい、観察候補リストでもあります。

1 人間のかかわりは？ 現在、過去、未来……

自然をみる最も重要な視点は、人間のかかわり、その過去と現在、そして未来だ。私は思っています。ブナ林についても、古くからならぬかの形が利用していた所が多く、その利用のし方や程度について知ることが重要です。炭焼きなどかなり広範囲に伐られたところはブナ林の構造や植物、動物相などに大きなゆがみが生じています。また、それが長期間続いているのかどうかも問題です。直径五〇

2 林の構造は？ 日本海型、太平洋型？

第二にはブナ林の構造です。これには多くの視点がりますが、表のように、林木に占めるブナの優占度、そのほか混生する主要林木、林床のササの種類とその被度、そのほか林内の特徴的な種類、そうした総合的な結果として日本海側と太平洋側の二つに大別されるブナ林の型の五つの項目をここであげました。

【ブナ林の構造】

調査地	調査年	標高(m)	自然度	ブナ以外の主要林木	ササの種類と被度	特徴的植物	幹回り・高さ(m)
青森 花珠山	86	300	日 高	ミズナラ	チシマザサ 少	マルバマンサク、キハナイカリソウ	430 30
青森 馬野島の森	85	450	日 70	ミズナラ		ヒメアオキ	365 31
秋田 赤石川源流	85	600	自然林 日				460 30
秋田 岳 岳	86		日 高	ミズナラ	チシマザサ 大		480 28
秋田 鳳台山	85 86	1,100	日 90	アオモリトドマツ		ハイイヌツゲ、ガゼンソウ	225 30
岩手 三ッ石山	85 86	850	二次林 日	ミズナラ	チシマザサ 大	アカナナナカマド、キタゴヨウ、オオシラビソ	295 22
山形 鷹ノ王	85	1,200	日 97	ミズナラ	チシマザサ 4	ダケカンバ、ヒメモチ	162 15
宮城 栗駒山麓	85	700	自然林 日	トクモクシ	4	カツラ、ヒメアオキ	310 35
福島 二岐山	85 86	850	日	アスナロ		チゴユリ	350 30
栃木 霧降高原	85	1,600	自然林 日				210 25
茨城 八溝山	85	940	太 23	イヌブナ	ミヤコザサ 5	イヌブナ、ナツツバキ	230 28
群馬 湯沢川	85	800	自然林				320
群馬 鹿島山	86	1,200	択伐林 日 高		チシマザサ、クマイザサ	ミヤマエンレイソウ、ニオイタネツバキ	365 30
群馬 玉原高原	85	1,200	日 80		チシマザサ 5		270 35
埼玉 赤沢の越	85	1,100	自然林 太 27	イヌブナ、ツグ	スズタケ	イヌブナ、ナツツバキ	405 35
群馬 湯川	86	860	自然林				324 28
神奈川 白ヶ岳	85	950	太 7	アカガシ、シナノキ	4	アセビ	230 20
群馬 丹沢	86	1,000	太 高		スズタケ 4	リョウブ	200 30
山梨 御坂山	86	1,500	太 高			ナツツバキ	
長野 川中平	86	1,300	日 96	シナノキ	チシマザサ、チマキザサ		405 30
富山 立山	86	1,160	日 高	ホオノキ	少	タムシバ	400 33
静岡 富士山	86	3,776	太			オトカラコウ	
静岡 天城山	85	1,000	二次林 太 63	イヌシデ、ヒメシヤラ	3	ヒメシヤラ、アセビ	279
愛知 面影峠	85 86	1,150	太 30	モミ	スズタケ 5	シロモジ、イヌシデ	300 20
岐阜 奥山麓	85	1,360	日 43	コメツグ、ミズナラ		ネズコ、ウラジロモミ	267 25
岐阜 大井川	86	1,250	日 高	ミズナラ	チシマザサ 3	タムシバ	323 30
滋賀 北郷山	86	580	太 中	モミ	ミヤコザサ 5	コアシノキ、シキミ	290 20
京都 宇治の越	85 86	850	日 高、40	ミズナラ、アカシデ		カマツカ、レンゲツツジ	200 18
大阪 葛城山	85	860	太 3				440 28
和歌山 砂見山	86		太 低	アカガシ、ホウ		アオキ、コアシノキ	343 30
和歌山 龍草嶺山	86	1,370	太 中	ミズナラ	スズタケ 大	アオキ、シロモジ、ウスキヨウラク	280 25
兵庫 六甲山	85	850	自然林 太 13	コナラ、ミズナラ、アカマツ		クロマツ、イヌブナ	186 20
鳥取 雨滝	86	560	日	ミズナラ	チシマザサ	エゾアシヤ	200 20
広島 臥竜山	86	1,220		ミズナラ	チシマザサ	ハイイヌツゲ、イヌブナ、エゾスズリハ	450
鳥取 大万木山	85 86	1,220	二次林	100		ヤマアジサイ、クロモジ、チヌツバキ	285 22
徳島 朝山	85 86	1,280	自然林 太 37	イヌブナ		カマツカ、ヒメシヤラ	392 26
香川 大塚山	86	940	自然林			カマツカ、シラバハダマ	345 17
長崎 雲山	86	1,000	自然林 太 70	アズキナシ	ウンゼンザサ	ミヤマシキミ	138 15

ブナ林の優占度は三〇本の林木のうちブナが何本かという割合で示されています。実際には胸高直径などを計った方がよいでしょう。日本海側のブナ林では平均して八〇%がブナの本でしたが、太平洋側ではわずか三〇%で際立った違いをみせています。後者は針葉樹のモミ、広葉樹のイヌブナ、アカガシなどを多く含む種類が共存しているためと思われ、それに対して日本海側では、ミズナラと共存することが多いようです。

ブナ林の林床はササが出現することが多く、それがブナの実生の定着やブナ林全体の更新に大きく影響していることが今までの研究から明らかにされています。特にササの種類は日本海側と太平洋側と大きく異なり、よい指標となつていきます。日本海側ではチシマザサやチマキザサが主で、背丈を越すような高いササ原が出現します。太平洋側ではミヤコザサのようにヒザぐらいの低いササ原です。このササの量も更新との関係が重要です。今回の報告では日本海側で平均被度三、太平洋側で四と、後者の方が大きいものでして



た。日本海側では林木密度の関係などでササが少ない部分もみられるので観察地をそのようなところに設けたのかとも考えられます。今回の報告のためには不十分ですが、これも人手の加わり方や林木密度、地形、標高といった面から地域ごとのササの量比などをみてもおもしろいでしょう。

日本のブナ林はただ広いというだけでなく、シラネアオイやトクモクシやウマといった日本固有の植物を最も多く含む森林であるという点でもまさに日本を代表するものとなっております。またイカリソウとトクモクシやイカリソウのように近縁種が日本海側と太平洋側とに分かれて分布する例が多くの植物群で知られています。このようなおもしろい分布型を示す植物もブナ林中に多数含まれており、表中にその一部を示しました。そのほか報告の中で多数みられたもの、特徴的なものをあげてあ

3 どこまで大きくなるの？ 最大バスト52センチ

第三に各地の報告の中からブナの最大木の大きさをまとめてみました(図1)。ブナの生長は地域により、また地形などの立地により異なるものと思われ、十分な広さをもち地域ではどれかの一個体がブナの最大サイズが実現されているはず。私が見たものの中で最大のブナは、胸高周囲五二センチでした。直径が一六八センチにもなります。地域によっても

異なるので一概にはいえませんが、少なくとも直径一二〇センチを越えるまではどの地域であっても、生長しうると思われます(図2)。こうした大木がみられないのは、多くの場合かつてそこが広域に伐採されたためと思われる。飯綱山ではブナの二次林しかみられませんが、中に一本二二〇センチを越すものがポツンとあって、かつての林をしのばせています。こうした大木は少なくともその地域では、ここまでは大きく育つのだという指標の意味も含めて貴重なものといえるでしょう。

四〇〇年を越える長命のブナとその林についてはまだまだ不明のことが多く、真に日本を代表する優れた森林であるのに今や減少する一方です。ブナ林をみる最後の視点はまさにそれぞれの森が今後どうなっていくかにかたよります。



図1 各調査地ごとにみられたブナの最大胸高直径

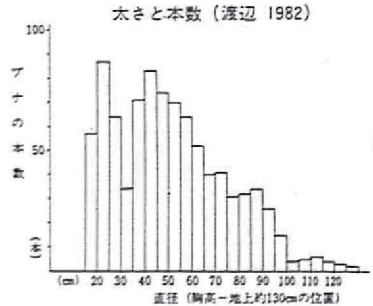


図2 カノ平におけるブナの太さと本数 (渡辺 1982)